



二十六聖人

2023年8月号

No.361 (2023年7月30日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：平和という言葉から

色々な理由があつて毎年8月になると、自分でも気付かぬうちに「平和」について考えてみるようになります。その理由の中でも、第2次世界大戦が終わり、韓国を始め、アジアの国々が日本の統治から解放されたことが、一番大きい理由だと思います。そして、この世界に再び「平和のムード」が訪れてきたのもその理由の一つだと言えます。それに、教会としては聖母マリアの被昇天の祭日があり、平和についてのわたしたちの省察をもっと深めるように促している気がします。

平和について思う時、わたしの頭にはいつも「平と和」、この二つの漢字の形が浮かび、「これは不思議だな。」という気持ちとなります。そこで、今月の巻頭言には「平和」という言葉について少し書き、自分なりに考えたことを信者の皆さんと分かち合いたいと思います。

まず、「平」という漢字ですが、これは一番上にある「一」と、その下にある「十」、そして、「八」という漢字を逆にしたような形の二画で成り立っています。その「八」という漢字を逆にしたような形は、まるで、

「人が両手を高く上げているような」形でしょう。それで、全体的な形を考えてみたら、天(一)に向かって、十字架(十)の上で、人が手を上げているような形、つまり、十字架上のイエス様の姿が見えるようです。

そしてもう一つの漢字。「和」という漢字は、元々「稲や穀物」を意味する「禾」と、「口」で成り立っています。そこで、この漢字は、「穀物を一緒に食べている人々の親密な絆」を表していて、この漢字からは「一つの食卓を囲んでいる一つの家族の姿」が見えるようです。その穀物や食卓とは、ただ、食べ物についてのことだけでなく、世の中の様々な形の祝福を表していると思います。そう考えてみたら、確かに、人は世の中の色々な形の祝福を自分だけのものとせず、それを共にすることによって、家族のような親しい絆を築き、また、それを守ることができると分かります。

このように、「平和」という言葉についてわたしなりの勝手な考えを書いてみましたが、どうでしょうか。事実、教会は、十字架上のイエス様の尊い犠牲によって生まれた

「救いと平和の共同体」であり、「イエス様の御体と御血を命の糧と救いの杯としていただき、その食卓を囲んでいる一つの家族」なのです。ですから、世の中でのよこしまな雰囲気や風潮の中でもその救いと平和を表し、それを守る共同体のしるしとなるべきであり、それを教会の使命、また、生き方だと言っても過言ではありません。

イエス様の十字架の下で、悲しみに包まれておられた聖母マリアは教会の母とされまし

た。マリアは、罪深い人間の救いのために、十字架の上で何一つ惜しまずささげられたイエス様と共に、自らをささげものとししました。そして、今もあらゆる形で戦い合い、争い合っている人間の救いと平和のために、神様に祈っておられます。わたしたちも、そのイエス様と聖母マリアのみ心を心に留めて、イエス様の御体と御血の食卓を共にし、また、神様からいただいた様々な恵みと祝福を分け合いながら、この救いと平和の道を歩んでまいりましょう。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

2023年7月教会委員会報告（開催日：7月2日）

【神父様のお話】

7月5日に、韓国の議政府（ウィジョンブ）教区から派遣されて、チョン・ソリ・アントニオ神父様（36歳、司祭叙階2020年）が来日されます。しばらくは日本語の勉強をしながら当教会に寝泊まりされる予定です。皆さんの歓迎と協力をお願いします。

（編集注：4ページでご紹介しています。）

【信徒意見への対応】

皆様から頂いたご意見に対する討議結果をご報告します。

意見「スタンドグラス検討の進捗状況が知らされていません。」

討議結果：報告を怠っていたこととお詫びします。昨年、アンケートや予備的調査を行い、その結果、スタンドグラスの検討を中断しました。設置に賛成される方がいる一方で、積極的に反対する意見や他に優先すべきことがあるという意見も少なからずあることが分かりました。スタンドグラスには百万円単位の費用が必要で、賛否の分かれる状況下でそのような支出を急ぐのは適切でないと判断しました。

【検討事項】

1. 10月29日予定のバザーに向けて6月18日に第一回バザー実行委員会が開かれ、その内容報告がありました。委員はヨゼフ会、マリア会、青年会、インターファミリーから各2名ずつ、委員長はヨゼフ会のKさんです。7月16日に第二回委員会を行う予定です。

2. 9月10日予定の敬老の集いについて検討しました。ご招待する方は例年通りですが、今年は三密を避けるため会場を聖堂に変更し、会食は見合わせることにしました。その代わりに二階集会室と前庭に茶菓を用意して、集いのあと歓談できるようにします。

3. 月定献金を納める人数が年々減っているため月定献金キャンペーンを開始しました。教会の司牧活動を支える信徒の大切な務めなので、いままで納めていなかった方、コロナで一時中断していた方は是非ご協力をお願いします。なお、このキャンペーンは月定献金の増額を求めるものではありません。

【報告事項】

1. 事務所

6月16日に横浜マックの方10名が草むしりをしてくれました。いつも、年末福祉献金をして貰っているせめてものお礼とのことでした。また、6月18日に同じ趣旨でワンダーポートから沢山のジャガイモや人参を頂きました。神父様に食べて頂くことにしました。信徒の皆さんとこの喜びを分かち合いたいと思います。

2. 典礼委員会

①7月4日のミサから、司祭、侍者、聖体奉仕者は、内陣内でマスクを着用しないことにしました。ただし、聖体授与のときは着用します。

②8名の方が新たに香部屋奉仕者に参加されました。当面は平日ミサで奉仕して頂くこととなります。

3. 教会学校

①8月20、21日に青年会と共同して当教会で夏企画を行います。教会学校は、前半のサマースクール（聖書のお話、幼児向けお楽しみ会）を担当します。

②7月9日の「わかちあいたいかい」で子供プログラムを担当します。

4. キリスト教講座

①7月8日に堅信講座の案内を該当者に発送します。締切は8月13日です。

②12月2日に待降節黙想会を行います。指導は雪の下教会の上杉雄太神父様です。

5. 福祉委員会

年末福祉献金を贈っている団体から報告を受けることを計画しています。また、それらの団体がバザーに出店する検討をしています。もし支援先に加えたい団体があれば福祉委員会に相談してください。

6. 共同墓地委員会

上大岡共同墓地への納骨を3名受け付けました。上大岡共同墓地への林神父様御母堂の納

骨式（7月22日11時）に共同墓地委員会のSさんとKさんが参列します

7. ヨゼフ会

6月24-25日に神言修道会森山勝文神父様をお招きして神奈川大学箱根保養所で練成会を行いました。参加者は12名です。25日にはシャルトル聖パウロ女子修道会を訪問してシスターたちとともに森山神父様司式のミサに与りました。（編集注：7ページに報告を掲載しています。）

8. マリア会

①ボリビア支援グループ、アンナ会および信徒の献金計32万円をボリビアのオガールファティマ乳児院のためにイエスのカリタス修道女会へ送金し、お礼状を頂きました。詳しくは7月号のマリア会通信をご覧ください。

②ボリビア支援グループは6月25日「のんびり日曜日」でジャムの対面販売を実施しました。

9. 青年会

①8月20、21日に教会学校と共同で夏企画を行います。二俣川と保土ヶ谷の青年が後半のサマーキャンプ（教会に宿泊、小学生～高校生対象）を担当します。

②青年会6名と高校生1名が韓国を訪問してカトリックの青年達と交流するため、6月18日に韓国ゆず茶等を振舞って、募金集めをしました。7月16日に第二回を予定しています。

10. インターファミリー

①7月18日14-16時にアルペなんみんセンターを訪問する予定です。

②「編物ボランティアのUさんと編物してみよう」をテーマとして次回ミーティングを7月23日に行う予定です。

11. 一粒会

フィー助祭の司祭叙階に向けて7月23日まで霊的花束を受付けています。

以上

チョン神父様、ようこそ日本へ ようこそ二俣川教会へ！

7月5日、聖アンデレ金大建(キム・デゴン)神父様の記念日に、姜神父様と同じ韓国の議政府教区から新しい神父様が来日されました。アントニオ チョン ソリ神父様です。これから10年間の日本での宣教を始められるチョン神父様に、色々とお伺いしてみました。

日本語の勉強を頑張っています！

アントニオ チョン ソリ (전솔이) 神父様
Jeon Soli

1987年7月6日 生まれ
2020年2月5日 司祭叙階

身長193cm ^^
趣味は散歩を
することです。



名前の솔이(ソリ)には、「松の木のように、
青々と大きく成長する」という意味があります。

司祭叙階の時に選んだ
聖句は『この上なく愛し
抜かれた』ヨハネ 13-1

Q. 司祭になろうと思ったきっかけは、何ですか？

A. 私は小学校3年生の時から教会に通い始めましたが、そこで親しい友人のような司祭と出会いました。イエス様に倣って生き、イエス様に似ている司祭たちを見るのが嬉しかったです。中学生の頃から予備神学校(※1)に通っていましたが、大人になってイ・テソク(李泰錫)神父様を知った時、司祭になりたいという心が決まりました。李神父様はとてもイエス様に似ていると思ったからです。まさに、イエス様が創造された真の人間の姿を、私は司祭たちの姿の中に見出しました。それで私も、真の人間として生きていける司祭になりたいと思い、今もその夢を叶えるために歩んでいます。

※1 = 1980年代に韓国の小神学校が無くなり、その代わりに設けられている毎月の召命錬成会のこと。

Q. 日本で、どんな司祭生活を送りたいですか？

A. 宣教は昔から私の司牧目標の一つでした。私は新しい場所へ送られ、新しい人々と出会い、交わりたいと考えていました。考えてみれば、イエス様の弟子たちは皆、宣教師でした。彼らはイエス様の言葉を聴き、福音を宣べ伝えるために出かけていきました。私の守護聖人は聖アントニオです。聖アントニオもまた、宣教師でした。彼は叙階され、殉教者になりたいという情熱をもってアフリカへの使命に出かけていきました。日本は素晴らしい国です。日本の信者も韓国の信者と同じように熱い信仰を持っていると思います。しかし、韓国と比べるとカトリックの司祭が不足しています。信者には司祭が必要です。私は皆さんを助けたいです。私は日本の信者と幸せになりたいです。そのためには、イエス様の福音を分かち合うことが一番大事だと思います。そして私は日本の信者の皆さんと共に、もっとイエス様と親しくなれたらいいなと思います。結局のところ、すべての人間は神の民であり、私たちは同じ場所に向かって進んでいます。私たちが向かう先は、主イエス・キリストです。主への道の途中で、日本の信者の皆さんに出会うことが出来て嬉しく思います。皆さん、これからよろしくお願い致します。

7月9日 歓迎の花束贈呈



来日に感謝し、日本での宣教をはじめられるチョン神父様のために、みなでお祈り致しましょう！

姜神父様、2つのお祝いのご報告

姜神父様が二俣川教会に来てくださってから、7月は私たちの教会にとって2つのお祝いのある嬉しい月となっています。

今年も司祭叙階記念日当日である7月13日に「祈りの輪を届けましょう！」と緊急連絡網で呼びかけをし、13日の同じ時間(夜9時)に、それぞれの場所でお祈りをしました。

そして7月16日には、司祭叙階記念日と姜神父様の霊名である聖ヤコブ使徒の記念日(7月25日)のお祝いとして、教会から花束をプレゼントしました。今年は姜神父様がお好きな向日葵の花束をご用意しました。



私たちは、司祭叙階をお祝いすることで神父様を通していただいている神様のお恵みをあらためて感じ、感謝することができます。また、霊名をお祝いすることで自分や仲間たちの霊名を大切にすることを教えていただいているのだと感じました。

姜神父様、おめでとうございます！



8月6日から15日は、日本カトリック平和旬間です。15日はまた、聖母被昇天の祭日であり、終戦記念日でもあります。皆で心を合わせて平和を求めて祈りましょう。

平和を願う祈り

神よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください。

憎しみのあるところに、愛を 諍いのあるところに、ゆるしを

分裂のあるところに、一致を 迷いのあるところに、信仰を

誤りのあるところに、真理を 絶望のあるところに、希望を

悲しみのあるところに、喜びを

闇のあるところに、光をもたらすことができますように。

神よ、わたしに、慰められるよりも 慰めることを

理解されることよりも、理解することを

愛されるよりも、愛することを 望ませてください。

自分を捨てて初めて 自分を見いだし、ゆるしてこそ ゆるされ、

死ぬことによってのみ、永遠のいのちによみがえることを

深く悟らせてください。アーメン。

(アッシジの聖フランシスコの祈り)

イタリア・アッシジにある聖フランシスコの像 →



ヨゼフ会錬成会

ヨゼフ会では、毎年6月頃に1泊2日で会員の親睦をはかるための錬成会を催していましたが、コロナ禍のため2020年からは、3年連続で開催できませんでした。今年はようやく4年ぶりに6月24・25日に開催することができましたので報告します。

参加者は、例年より少ない12名（講師含む）が常宿の箱根の保養所に集合しました。今回の講師の、森山神父は、神言修道会の方で2020年司祭叙階金祝を機に教区司祭を引退され、岐阜の多治見修道院を拠点に活動されておられる方です。また、ヨゼフ会副会長のMさんの叔父にあたる方です。

今回お願いした講話のテーマは（神父の）召命についてです。我々一般信徒が、なかなか到達できない心境・瞬間を神父様から間近でお話していただければと選ばれました。神父様は、自己紹介で、被曝直後の長崎浦上での幼少期のこと、中学から神学校へ行ったこと、司祭叙階後も大学院で神学を学んだが神学研究コースから小教区分野に変更し、以後は、教区司祭をされて現在に至ったお話をしてくださいました。召命については、ご自身の被曝後の長崎での体験が司祭職に向かわせたが、これが召命の瞬間だということではなく、これだと思ったことを地道にやっ

ていくことが召命であると話されました。雷がドーンというようなのは、後世の人の劇的表現だとも言われました。また、以前、召命は司祭修道生活をするををさせていたが、現在は、家庭生活も含まれていて、『今、神は、何をせよと呼びかけているか』を聞くことが召命ですと言われました。その後の皆の質問にも優しく答えてくださり瞬く間に2時間が過ぎてしまいました。講話の後は、箱根の温泉にどっぷりとつかり 広い会場で夕食となりました。打ち解けたものどうしで豪華な料理に舌鼓を打ちながら大いに語り壺を重ねました。夕食後は、席を移して和室での分かち合いです。それぞれの信仰告白がつづきましたが、そこにも神父様はお付き合ってくださいました。

2日目は、近くの教会を訪問しますが、今年は、シャルトル聖パウロ修道女会の強羅修道院です。5年前にも訪問させていただきました。ふだんは、小田原教会でごミサにあずかるシスターたちは、神父様を同行するヨゼフ会の訪問をととても喜んでくださいます。ミサ後は、有名ホテルのアンパンをたくさん用意して歓待してくださいました。シスター方と『来年もぜひ』の挨拶をかわし感謝のうちに帰途につきました。ヨゼフ会の錬成会を復活できたことは、今後の活動の原動力となると信じています。信徒同士の会話の少なかったこの3年間の停滞を打ち破る大きな行事になることでしょう。神に感謝。

ヨゼフ会 ベネディクト N. K.



二俣川教会 ニュース

- 久しぶりの「わかちあいたいかい」が7月9日に行われました。詳細報告は、9月末発行の『二十六聖人』10月号に掲載されます。
- タン・ホアン・フィー助祭の司祭叙階式は8月10日にベトナムで行われます。私たち二俣川教会の信徒は、ミサ前に皆で祈ってきましたが、それと共に、皆の心からの祈りを霊的花束としてお捧げいたします。
- 東京カトリック神学院の2023年度ザビエル祭のご案内（予告編）が出来ました。下記 URL または QR コードからご覧いただけます。
<https://youtu.be/Jwl8D8NagFE> QR コード→





マリア会通信 No. 130

毎日暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？教会の主日ミサも、少しずつコロナ前の状態に戻って来ました。

まだ教会内ではマスク着用が推奨されており、なかなか素顔で接する機会がありません。そんな時こそ、ひと添えの言葉の大切さが必要かと思えます。

一日のうちに何回「ありがとう！」という言葉をお口にしましょうか？例えば、物を取ってもらった時に「ありがとう！」。物は勝手に手元に飛んでくるわけではありません。家の中でも外出先でも、感謝の言葉を伝えることを心がけたいと思います。



ひと添えの言葉で、酷暑の中でもさわやかな気持ちで過ごしてはいかがでしょうか？

マリア会 H. I.

【編集後記】

3年ぶりの「わかちあいたいかい」は、久しぶりの対面でのわかちあいの機会でした。徹底されたソーシャルディスタンスの経験を経て、ともすれば、こころの距離も離れ気味になりましたから、神様のもと、ひとつになる体験が、新鮮で嬉しかったですよね。10月号では、改めて特集をし、「わかちあい」の纏めをお届けします。9月号は休刊になりますが、毎月発行の『二十六聖人』も、皆様のごころの距離をグッと近づける存在でありたいと思います。今後ともご協力をお願いします。

(A. K. 記)